

2019.7.5 <計2枚>

京都大学記者クラブ加盟各社 各位

立命館大学広報課

文学部で国際的な2学域^{※1}2専攻^{※2}を新設し、55名入学定員増

～英語科教員養成・日本語科教員養成を強化、イスラームを学ぶ専攻の立ち上げなど

グローバル教育を推進～

立命館大学文学部は、2020年度より国際化の更なる推進や専攻横断型の学びを展開するため、55名入学定員増を行い、これまでの7学域17専攻を8学域18専攻2クロスメジャーの体制に刷新します(文部科学省の収容定員の増加等に係る学則変更認可済み)。

従来、英語科教員養成および日本語科教員養成などに力を入れてきた「コミュニケーション学域」を「国際コミュニケーション学域」と「言語コミュニケーション学域」の2学域に拡大・発展させます。

「国際コミュニケーション学域」では、約半数の科目を英語開講にし、短期留学生との共修科目も倍増させるなど、新学習指導要領で求められている実践的な学びに対応できる英語科教員の養成や国際社会で活躍できる人材の輩出を目指します。

「言語コミュニケーション学域」では、日本語科教員養成課程の更なる充実を図ります。現在、政府でも日本語教育推進法案が審議されているなど、外国人への日本語教育のニーズは企業や教育機関において年々高まっています。日本語科教員養成課程に加えて、国語科の教員免許も取得できるため、日本語教育の資格を活かして企業や教育機関など、幅広く活躍することが可能です。

「ヨーロッパ・イスラーム史専攻」を設置し、ヨーロッパとイスラーム世界の関係を歴史の観点から学びます。イスラームを冠する教育組織は全国的にも希少で、独自の教育を展開します。

専攻横断型の学びとして、「京都学」と「デジタル人文学」のクロスメジャーを設置します。既存のどの専攻に所属する学生でも2回生から自由に選択・受講できる横断型専攻として展開します。加えて、文学部では約8割の専門科目はどの学域・専攻に所属していても受講することができます。学生数4000名、専任教員数100名を超える西日本最大規模の文学部として、より幅広い分野の学びを展開し、既存の学問分野を超えた発想で新領域を開拓できる人材の育成を目指します。

<2020年度以降の学域・専攻体制> ※新設・改編は「NEW」

※詳細は次ページ記載

人間研究学域 哲学・倫理学専攻 教育人間学専攻	日本史研究学域 日本史学専攻 考古学・文化遺産専攻	国際文化学域 英米文学専攻 ヨーロッパ・イスラーム史専攻 文化芸術専攻	国際コミュニケーション学域 英語圏文化専攻 国際英語専攻
日本文学研究学域 日本文学専攻 日本語情報学専攻 NEW	東アジア研究学域 中国文学・思想専攻 東洋史学専攻 現代東アジア言語・文化専攻	地域研究学域 地理学専攻 地域観光学専攻	言語コミュニケーション学域 コミュニケーション表現専攻 言語学・日本語教育専攻

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学広報課(取材について)

担当: 田中・中村

TEL.075-813-8300

立命館大学文学部事務室(内容について)

担当: 岡本

TEL. 075-465-8187

<文学部改革の詳細>

①「国際コミュニケーション学域」、「言語コミュニケーション学域」の2つの学域を新設

●英語圏地域の文化を学び、英語の多様性と奥深さを極める「国際コミュニケーション学域」

→「英語教育の充実」、「約半数の専門科目で英語による授業実施」、「短期留学生との共修科目を倍増」、「卒業論文は英語で執筆」

- ・英語圏地域を中心に、文化や民族の摩擦と共存、多文化環境での集団と個人について横断的に学ぶ。
- ・最新の理論を用いた英語教育の研究と学校英語教育に必要な実用的な知識と技術を身につけた高い質の英語科教員の輩出。立命館大学で英語科教員の免許が取得できるのは文学部のみ。

●ことばとコミュニケーションに関わる多様な問いを探究・実践する「言語コミュニケーション学域」

→「コミュニケーションについて実践的に学ぶ」、「日本語教員養成プログラム」、「ことば」の理解と体験」

- ・小説やアナウンス、広告などの言語表現も含む、「コミュニケーション」を軸とした多様な分析と実践。
- ・異文化間コミュニケーションの考えに基づいた「日本語」を「外国語」として学ぶ人への日本語教員を養成。
- ・日本語教員資格と国語科教員の免許を得ることで就職先の幅も拡大。立命館大学で国語科教員の免許が取得できるのは文学部のみ。

②「西洋史学専攻」を「ヨーロッパ・イスラーム史専攻」に、

「日本文化情報学専攻」を「日本語情報学専攻」へ2つ専攻を改編

●ヨーロッパとイスラームの歴史からグローバル社会の未来を構想する「ヨーロッパ・イスラーム史専攻」

→「ヨーロッパ」と「イスラーム世界」の関係を歴史の観点から横断的・重層的に学ぶ

- ・交流と対立を繰り返してきた2つの文明圏を通して、現代世界の成り立ちや構造を幅広く考察し、人間社会の多様性や可能性を探究する。
- ・歴史的視野を広げることで、現代のグローバル社会に敏感に対応できる力の育成と、異文化への深い洞察力・豊かな創造力を身につける。

●情報技術を駆使した「日本語の多様性」と「現代における図書館の役割」の探究する「日本語情報学専攻」

→情報技術を駆使して「日本語」と「図書館」をテーマに学ぶ

- ・1000年以上の長い歴史を持つ日本語の変遷と「コーパス」(大規模な言語のデータベース)を用いた日本語研究。
- ・情報科の進む現代における図書館の役割の探究と図書館司書課程の開講。

③専攻横断型のクロスメジャーの新設

●京都の立地を活かした「京都学」とAIを見据えた「デジタル人文学」を新設

→全ての学域・専攻の2回生以上の希望者が「専攻の学び」+「京都学」または「デジタル人文学」の科目を履修可能。

- ・自身の専攻の学びと京都の歴史や地理・文学などを複合した「京都学」が融合した、多面的な学びの実現。
- ・デジタル技術を活用したビックデータや精密な情報から人文学を探究する「デジタル人文学」を用いた研究の実現。

立命館大学文学部における「学域^{*1}」と「専攻^{*2}」の定義

- ・学域…複数の「専攻」を束ねた教育組織。入試の募集人数を「学域」単位で設定し、1回生次に所属。
- ・専攻…2回生以降に所属する教育組織。学生が1回生冬に専攻選択を行い、所属専攻を決定する。